

## 人間関係のエネルギー仮説

- ・ 麗王での1万時間
  - 毎日約5時間、年間300日1500時間、7年間で約1万時間、毎日7~8名、年間延べ2100名、7年間で約1.5万人の話聞き、会話し、人間関係と人生の変化を観察 ▶ 人間関係のエネルギー仮説を導く ▶ 現在も検証中だが、今のところ法則に当てはまらないケースは(殆ど)ない
  - サンマリーナの経営実践、また、「次世代金融講座」で理論化されていることの一切は、麗王(の経営と人間関係)に原点がある ▶ 私は麗王で起こっていることのエッセンスを抽出し、250人の従業員がいるサンマリーナで、そして株式会社大八産業で、沖縄大学で、(そして遠からず南西航空で)展開しているだけである ▶ 本講座を受講していながら麗王に足が向かない人は、本講座の本質を理解していない可能性がある ▶ 次世代経営を学ぶのであれば、本講座よりも麗王の方がより直接的である
  
- ・ 量子論(スーパーミクロの世界で何が起きているかを研究する先端物理学)が既に証明した事実:
  - 物質は存在しない、我々が物質と感じるモノの全ては、エネルギーである
  - 「物質」は、人の意識によって全く異なるモノになる、例えて言えば、見つめると○になり、意識を向けないときは×になる ▶ 人の意識は直接エネルギーに作用してモノを創り出す
    - ◇ 「人は思い通りのモノを創り出している」というのは比喩ではない ▶ 「願えば叶う」のは科学的な事実である
    - ◇ 「人間は見たいモノを見る」というのは比喩ではない ▶ 誰にとっても見ていないもの(意識が向けられていないもの)は存在しないに等しい
    - ◇ 「世界観(発想・視点)の転換が新たな世界を創る」、すなわち、世界観の転換が生産性を生み出すことは物理科学の法則と符合する
  
- ・ 人間関係とはエネルギーの奪い合いである
  - 全ての人間関係は必ず「贈与」か「収奪」(または双方に贈与)のいずれかである ▶ 自分が収奪しないため、人からの贈与に気がつくために有効な「エネルギー仮説」
  - 人間関係(意識)の接点において、必ずエネルギーが収奪されている ▶ 「パワーをもらった」というのは比喩ではなく、物理的な現象かも知れない ▶ 入ってくるとその場が明るくなる人、暗くなる人は、物理的にエネルギーを与えたり、取り込んだりしている
  - 人間の行動の動機の殆どは、他人からエネルギーを奪取しようとする動機に基づいている ▶ この仮説で人の行動を観察すると、非常に説明力がある
    - ◇ 人から意識を奪ったり、注目されたりするとエネルギーを貰うことができる ▶ 特に男性が権威や権力を欲しがるのは、エネルギーを収奪するため、だから、一旦権力を取得すると手放そうとしない
    - ◇ 美しい女性や、お金持ちは注目を浴びやすい ▶ 美容整形や成功を目指す経営者は、エネルギーを得ようとしている ▶ エネルギーを収奪するだけに終わりがちで幸福になりにくい
    - ◇ 経営者は従業員から、親は子からエネルギーを大量に吸い取ることができる立場にいる ▶ 特に子供は無償の愛で生きているため、最大限エネルギーを発しているため、離婚しようとする両親は、このエネルギーを取り合って争っている
    - ◇ 人間力がない人は、人間的な実力で人から関心を得ることができないため、人格的に小さな

人物ほど、エネルギーを他人から奪取しようとする

- ◇ クラブの顧客は、社会的には成功者の象徴とされる向きがあるが、現実はいくらでも多額の金額を支払わなければ、人(女性)からの注目を受けることができない ▶ エネルギーをお金で買っている
- 人から奪ったり、(人の好意などで)得たエネルギーは薬物と同じ、その場は元気になるが、直ぐにより大きなエネルギーが欲しくなる
  - ◇ とても大きな注目(例えば甲子園で大活躍)の後、燃え尽きたり、心が空虚に感じたりすることがあるが、これは大量のエネルギーを取り込んだ後の副作用である
  - ◇ 昔話や過去の栄光に浸る人は、以前受け取ったエネルギーの再来を望んでいる
  - ◇ 人からエネルギーを取り込むことを覚えると、禁断症状がどんどん高まり、より大きな注目が欲しくなり、人間関係を毀損する ▶ 特に人から大きなエネルギーを貰ったときは、良いことが起こったように見える一方、要注意である、自分だけに取り込もうとすると、大きな副作用が生じることに
  - ◇ 「何か良いこと」が起こらないかと漠然と人生を過ごす人は、人からエネルギーを吸い取る機会(「棚からぼたもち」)を期待しながら、漂うように惰性で人生をやり過ごしている
- エネルギー収奪のパターン ▶ 共通点は、相手に関心を払う意識(思いやり)に乏しいこと
  - ◇ コントロール: 「成果目標」など、恣意的に定められた基準をもとに相手に誤りや不足を見つけ、その点を批判することで、相手の関心を引きつける(エネルギーを吸い取る) ▶ 一緒にいると、自由を奪われる気持ちがある人 ▶ 資本家、多くの経営者、両親、サディスト
  - ◇ 被害者: 哀れに振る舞って相手の同情と関心を引きつける(エネルギーを吸い取る) ▶ 一緒にいるとこちらが罪悪感を感じる人 ▶ 沖縄の被害者意識、交通事故などの被害者、自己嫌悪、建設的でない悩み相談、マゾヒスト
  - ◇ 嘘: 事実をねじ曲げ、相手の聞きたいことだけをしゃべっている間は、相手の関心を得ることができる(と思っている)
  - ◇ 隠す: 自分の素性を明らかにしない、物事を茶化す ▶ 神秘的に振る舞って相手の関心を引きつける(エネルギーを吸い取る)
  - ◇ 権威: 周囲の注目を浴びるために、輝いている自分を演出する、ファンクラブ ▶ ヒーロー、役者、芸術家、お金持ち
  - ◇ 人以外のモノへのこだわり: 職人気質、こだわりの技術によって、人の注意を引きつける。人の注意には関心があるが、人そのものには関心がない。人と接するのが苦手な人嫌いだ、人肌恋しい ▶ 焼き鳥屋の親父、頑固職人、金融などのプロフェッショナル
  - ◇ いわゆる S&M はいずれもエネルギーを奪取しようとする行為である ▶ S は相手をいじめることによっていじめられる人から意識を得る、M はいじめられることによっていじめる者の注目を得る ▶ 驚くほど多くの人間関係は、広い意味での S&M といえる
- エネルギーを他人から奪取せずに補給する方法は、人に与えることである
  - ◇ 贈与されたエネルギーは、自分だけに取り込まず、お返し、または「フォワード」すると増幅する ▶ 簿外資産を蓄積する
  - ◇ エネルギーは消耗品ではない、発揮するほど増幅するものである ▶ エネルギーを贈与するとその日は衰弱するほど疲れるが、夜は泥のように眠り、翌日は子供のように目が覚める、子供のような生活に変化していく、明日のことを気にせず、「今」に全力を尽くす、出し惜しみをしない人生
  - ◇ 自分が強くなるほど、人の役に立つほど、正直に生きるほど、エネルギーを発するほど、エ

エネルギーを発する力が大きくなる ▶ 「オーラがある人」とは、このような生き方をしている人ではないか？ ▶ 宗教画で聖人たちの頭に「天使の輪」が描かれているのは比喻ではなく、写実的な描写である

- ◇ 人の話を聞く、相手の恐れを取り除く、やりたいことに踏み出す際に背中を押す…すなわち人に対して愛で接すると、その場は消耗するが、やがて自分自身のエネルギーが増幅する
    - ▶ オープンで(隠さず)、人を変えず(コントロールせず)、自分に嘘をつかない生き方は非常に生産性が高く、また、そのような企業が高い収益力を持つことは偶然ではない
  - ◇ 殆どの人が他人からエネルギーを奪い合っている中、積極的に与えてくれる人に対しては、多くの人々が群がることになる ▶ エネルギーの奪い合い経済である「第一の経済」のなかに贈与の経済である「第二の経済」が存在すると、多くの顧客はエネルギーを吸いにやってくる
    - ▶ エネルギーを収奪し続けると、中毒になり、人間力が低下し、人生が崩壊する
  - 自然の中で時間を過ごしたり、沖縄のきれいな海に浸かったり、自然な食物を取り込んだり、瞑想したりすることは、エネルギーを人から収奪せずに取り込む効果がある ▶ パワースポットや聖地とはそういう場所ではないか？ 沖縄の土地には力があると言われているが、本土と比べて人がエネルギーを奪うよりも贈与しがちな社会が生まれていることと無関係ではないのではないか？
- ・ 仮説を証明することはできないが、仮説を生きることによって生じる莫大な生産性は否定できない